

広く水施設で活躍する(株)伊勢工業のテクノロジー。

各種設備納入実績

攪拌装置



●志摩水道事務所(三重県企業庁)
フロキュレータ(翼車)

除塵機



●多気郡多気町(三重県企業庁)
固定式エンドレス自動除塵機
2.0m×2.4m



●千倉排水機場
(桑名農政環境事務所)
背面降下前面掻揚式
除塵機
3.2m×3.8m

その他の構築物等



●桑名市長島町大字松ヶ島
(桑名農政環境事務所)
木製床版 人道橋上
13.3m×2.0m



●愛知用水(愛知用水総合管理所)
救命筏



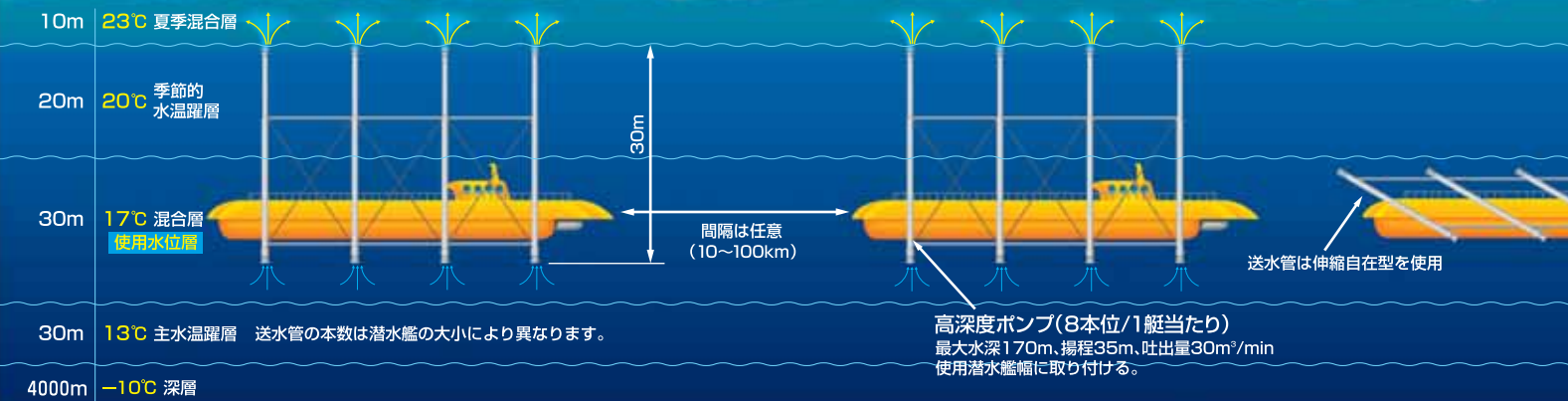
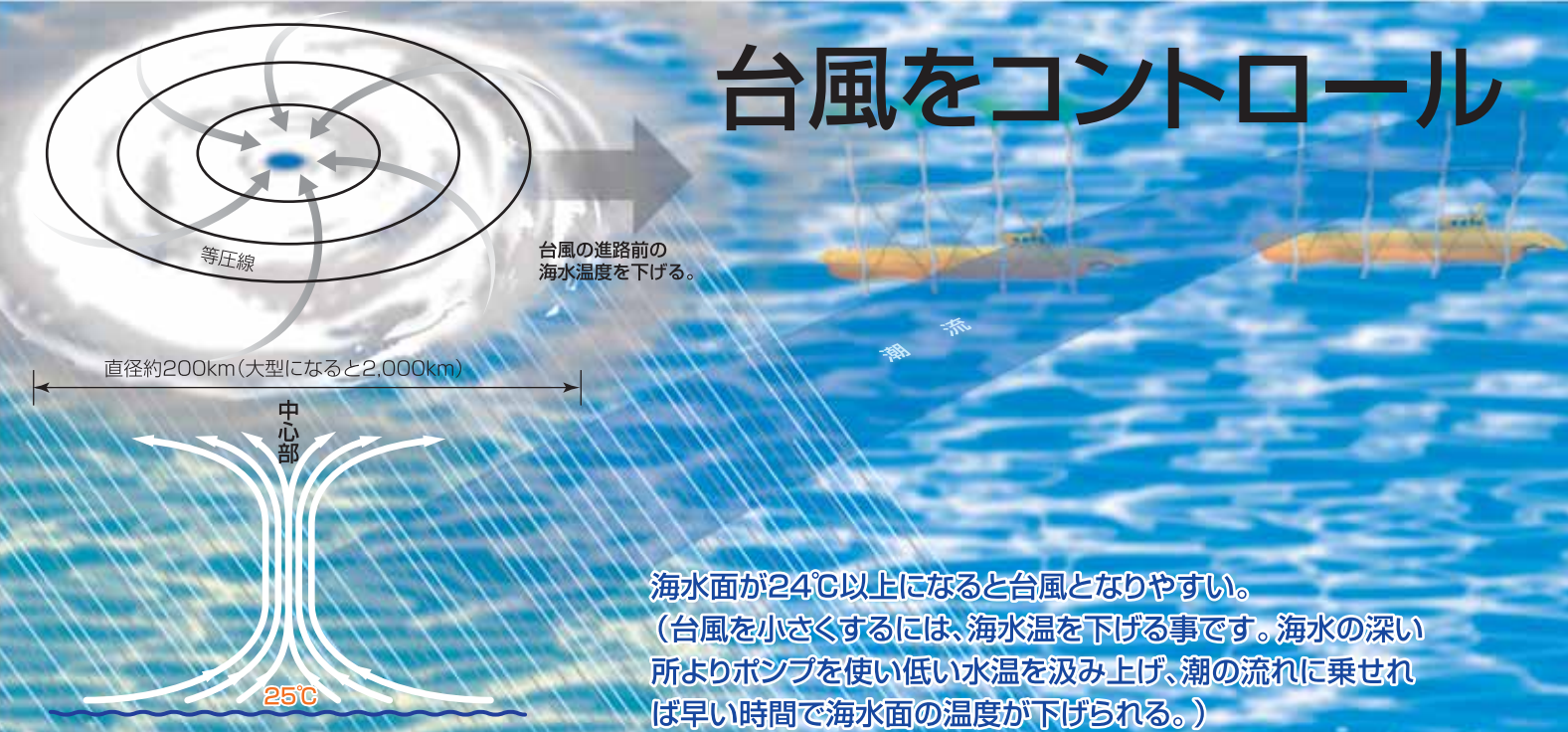
●三重県桑名市多度町
(三重県水管理所)
可とう管 φ400露出型



●志摩市磯部町恵利原(三重県企業庁)
神路ダム斜樋ゲート設備改良(潜水作業)
1.5m×2.85m

●多気郡多気町相可(三重県企業庁)
沈殿池 耐震目地設置
上流側(L=19.9m)
下流側(L=19.6m)
各2箇所

台風をコントロール



海水温が上がれば温暖化が進み生物を守れなくなります。

台風は暖かい海面から供給された水蒸気が凝結して雲粒になるときに放出される熱をエネルギーとして発達します。大きな台風に発達しない様、進行方向前方の海水表層の水温を下げることを目的としています。各潜水艦は間隔を適切に保ちつつ台風前方の水温を下げるように移動し、安全面でも台風より約10~100kmの間隔をとり移動します。潜水艦の速度は潮流に乗せることにより冷水は自在に動きます。台風時期以外の利用方法として水温下げ、プランクトンを吸い上げることにより漁業に役に立ち、海底の活性化にも役立ちます。また、この作業を行うことにより表面水温が下がり地球温暖化緩和にも役に立つと思います。使用しなくなった潜水艦を改造し、平和利用に活用する事で世の中に平和をもたらすのではないのでしょうか。



国際特許取得 米国・インド・日本 発明者 北村皓一